

厚生労働省は

HPV^{ヒトパピローウイルス}ワクチンの接種も

おすすめしています

HPV ワクチンの安全性
が確認されました

HPVワクチンはこれまでに世界で約5億回も接種されており、他のワクチンと比べて特別に重い副反応を起こしやすいわけではないことがわかっています。厚生労働省の副反応検討部会は安全性に特段の懸念はないと報告しています。

WHO(世界保健機関)も「HPVワクチンは極めて安全性が高い」としています。ワクチン接種によるメリットと副反応のデメリットを比べた場合、メリットの方がはるかに大きいと考えられます。

HPVワクチンについて、わかりやすく詳しく解説しています→ [みんなピ!](#) 検索

ワクチン接種後に起こりうる症状

はれ、痛み(局所反応)

ワクチン接種に伴い、接種した場所にかかる炎症。多くは数日以内に改善します。

アナフィラキシー

接種後にじんましんや咳等のアナフィラキシー症状が起こるのは約96万回に1回。接種後30分間は病院で安静に。

不安による心身の反応

10歳以上の児童では、痛みや不安等で自律神経が刺激され、一時的に血圧が下がって失神・過呼吸や気分が悪くなることも。注射前に緊張したり、以前注射で気分が悪くなったことがある方は症状を起こしやすいため、ベッドに横になって接種などの対策があります。他のワクチンよりも神経系の病気が特に起こりやすいデータはありません。



他のワクチンより
危険性が高いわけ
ではありません

ともとも...

子宮頸がんって？

女性の子宮の入り口付近にできる「がん」で、日本では20～40代の女性を中心に**毎年約1万人**が新たに子宮頸がんと診断され、**年間約3,000人**が亡くなっています。また、子宮頸がん患者の9割近くで子宮摘出等の手術や抗がん剤治療が必要になり、子どもを産むことができなくなる方も少なくありません。

子宮頸がんの95%以上がヒトパピローマウイルス (HPV) の感染によるもので、**17歳未満でHPVワクチンを接種すると子宮頸がんの88%を防ぐ**ことが報告されています*。接種した人も**20歳をすぎたら子宮頸がん検診を受けましょう。** ※ N Engl J Med 2020; 383:1340-1348.



約8割の女性が一度はHPVに感染

年間約1万人が新たに診断

20～40代女性に多い

検診では異常が出てからしか見つけられません



女性の8割



なんて...

まさか...



子育て中...

働き盛り...



検診とワクチン両方大事

ワクチンを接種するには？

HPVワクチンは定期接種として、**小学6年生から高校1年生の女子**は無料で接種できます。**中1が標準的な接種年齢**です。**1997～2005年度**生まれの女性は2022年4月から3年間は**特例で無料接種可能**です。



接種の手順

1 予防接種について...

自治体ホームページ等でHPVワクチンの予約票の受け取り方を確認。

2 予約

医療機関に電話をしワクチン接種の申し込み。

3

当日は医療機関から指示された書類(予約票、母子健康手帳、健康保険証等)を持参して受診。



接種後に体調を崩したら

もし接種後に気になる症状がある場合は、接種した病院や周りの大人に遠慮せずに相談しましょう。

相談してね!



HPV感染症に関する正確な知識を伝え、皆様の健康増進に寄与することを目指しています。

みんなパピ!

みんなパピ! HPV

みんなパピ!

検索



2022年4月作成

